

「赤心」**《瀬戸内海式気候》**

新年明けましておめでとうございます。

雲一つない穏やかな晴天が続きます。皆さま方にはきっと健やかな新玉の年を迎えられたことと思います。

考えますと、この大分県、とりわけ由布市の庄内町は挾間町は地の利に恵まれていますね。海岸からはそこそこの距離ですし、強風や嵐からは阿蘇山や由布山、鶴見山が守ってくれます。加えて瀬戸内海に面していますから気候も急激な変化の無い穏やかな気候と言っても良いと思います。

《開山は1200年前》

新年早々ととても良いことがありました。二日に3社参りをするのが習わしです。昨年、一昨年は自粛を致しましたが、今年は万全の対策をしてお参りしました。大分市高城にある天台宗のお寺で貫首に新年の挨拶を申し上げましたら、親しく話して来られ、「良く来てくれるね、何年になる」とのお尋ねで、「もう40年になります」とお答えすると、「土師さん、私は本山の宗務総長になって、世界中を飛び回っている。土師さんはいくつになるか」とのお尋ねに「これこれこうです」とお答えすると、「私よりだいぶん後輩だね。私は昭和22年生だ」とのお話。75才とは思えないほどお顔は若々しく、艶々しておられました。

天台宗は真言宗と並ぶ日本密教で、比叡山延暦寺が本山の、今から1200年前、806年に唐に渡られた伝教大師最澄によって開かれた教えです。トップは座主といわれ100才、宗務総長はNo.2で75才、大分の方。

年齢ではないのですね。私は全ての年齢を重ねた方に申し上げたい。年齢ではないのです。所詮は気持ちの持ち方。

《赤心》

昨年末に唱和目標を募り、47に及ぶ案を頂きました。例年になく多数の応募で悲鳴をあげんばかりでした。作品はホームページにアップしておりますのでご覧ください。鳩首協議の結果、本年は、

「まごころに 笑顔をそえて 手を添えて」

を選ばせて頂きました。この他にも、「優しさで 広がる笑顔 チームの和」や「考えよう チームで取り組む 介護の和」など印象に残る作品が多々ありました。沢山の応募を頂きましてありがとうございました。

「いつわりや飾りのないありのままの心でご利用者に接し、溢れる笑顔で実際に手を差し伸べましょう」ということでしょうか。偽りのない、あ

りのままの心は「赤心」とも言われます。つまり、赤ん坊の気持ちでということでしょう。赤ちゃんには、利害打算の気持ちなど毛頭ありません。赤ん坊のところで勇気をもって手を差し伸べていく。福祉の原点です。これほど価値の高いことはありません。

《やってやるぞ》

年末に私たちは「思いを新たに自分を成長させる」目標シートを作成しました。私は昨年は5つ目標を立てました。出来たことは継続しつつ、取捨選択して今年も5つ目標としました。年々強くなっている自分を感じつつ、「今年もやるぞ」と意気込んでいるところです。社会は予期せぬことの連続ですが、私たちは、自分のことばかりでなく社会の発展に貢献するために生きているわけですから、人のせいにはせずどうせなら自分からしっかりやってやりましょう。

生きることはアートです。これから一年自分たちのアートを描いて参りましょう。今年一年の皆さんのご活躍を心から祈念します。

社会福祉法人愛泉会 理事長 土師 壽三